

# 十三浜プロジェクト 2016年度 活動報告書

# 十三浜プロジェクト 2016

—地産材・地域資源を活用した建築による地域間連携と協働—

特定非営利活動法人山の自然学クラブ

中村華子

山の自然学クラブでは 2011 年から石巻市十三浜地区において「地域の自然や資源を活用した活性化」「地産資源を大切に活用すること」、「人の手によるものづくりに取り組むこと」などを目標に、日本工学院八王子専門学校の先生方と協力しながら活動に取り組んでいます。宮城県七ヶ宿で水源を守る活動をされている特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿さんと十三浜地区にご一緒させて頂き、相川地区の小山清さんにご協力頂いて始まりました。日本工学院八王子専門学校では 2012 年から「はじめての建築」という、学校のカリキュラムに組み込んで、製作に取り組んで下さっています。

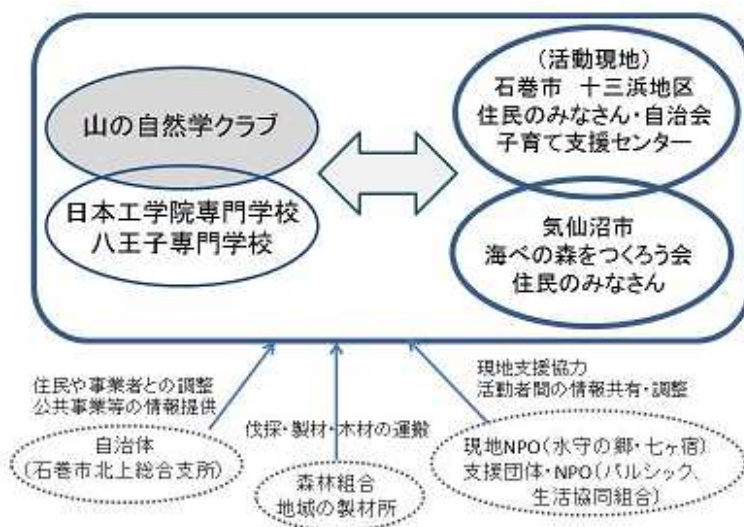
十三浜地区とは 北上川の河口に近い左岸～志津川湾までに位置する旧宮城県本吉郡十三浜村（明治 22 年～昭和 30 年）。その後平成の大合併までは旧北上町、現在は石巻市になりました。志津川湾との境・神割崎から小滝・大指・小指・相川・小泊・大室・小室・白浜・長塩屋・立神・月浜・吉浜・追波の計 13 の浜＝集落があることが名の由来です（下図）。



国土地理院地図に加筆

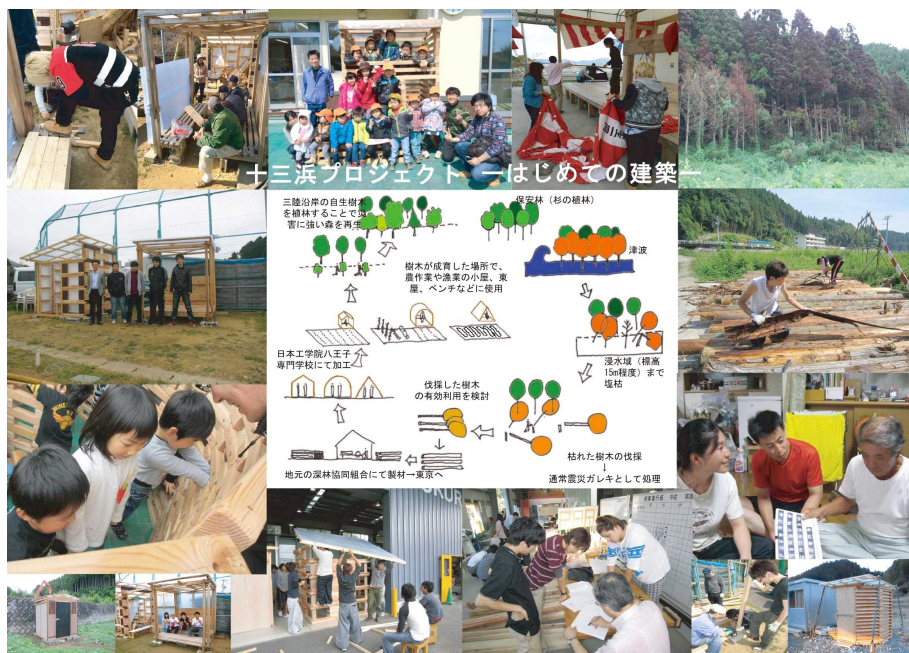
## プロジェクトの実施体制・2016

この活動は、多様な主体が献身的に関わってくださることで成り立っています（右図）。現地のみなさん、そして柔軟に対応して下さる石巻市北上総合支所や森林組合・製材所、水守の郷さんはじめ活動仲間のみなさん、すべてのみなさまが同じ様に必要です。新しい仲間、海への森をつくろう会さんも頼もしい相手先です。



## 十三浜プロジェクト ～地産材の有効活用と地域活性化に向けた取り組み

2011年夏期に津波の浸水地ではスギが多数立ち枯れ、伐採と有効活用が課題となりました。いろいろな方と連携を模索する中で、スギを伐採して現地で製材し、日本工学院専門学校（八王子）へ運び、建築科の1年生が「はじめての建築」という実習課程において、そのスギを材料として使用し、現地で活用出来る小さな建築を製作して頂くことになりました。まず2012年に十三浜の1地区である相川自治会のみなさんからの協力を得て、試験的に少量の材を製材して運び、農作業用の小屋を3つ製作して翌年に現地へ設置。2013年度からは活動を発展させて、本格的に取り組み始めました。仮設住宅の近くに夕涼みできるあずま屋やベンチを、子育て支援センターの園庭に遊具やベンチ、棚などを、農地には物置や作業小屋、陽射しを避けられるあずま屋、浜の近くには物販等に使える屋台風の小屋、など、自治会のみなさんと必要なものを相談しながら製作し、現地へ設置しています。



2014年からは活動地区を広げて地元のみなさんが復活させた大室南部神楽の道具用に棚や倉庫を製作して設置したり、他地区の子育て支援センターや農園からの依頼を受け、遊具やベンチ、あずま屋などを製作、設置しました。さらに2016年には当会が活動する気仙沼地域からも建築設置の要望があり、足を伸ばして活動範囲を広げています。

活動は地域のみなさんと交流をしながら、現地で活用できるものを製作することを目的とし、以下の手順で進めています。(1)学生各自が現地のみなさんに役立つ、かつ、組立て・運搬が可能な、小型の小屋や家具などをデザイン提案して模型を製作。(2)その中からいくつか優良デザインを選んで設計し、建築物を製作。(3)活動の周知、首都圏での広報の目的を兼ね、学園祭で展示する。(4)その後一度解体して、後日現地へ運搬、組立てして、現地へ木材をお返しする。以上を一連の授業課程とします。さらに現地での活動として(5)住民のみなさんの使用状況を確認し、改善の要望を伺って改修やメンテナンスをする、(6)地域のみなさんと季節の作業やイベントのお手伝いをするため、学生を含めたボランティアで継続的に現地活動を実施する、等の活動を1年を通じて行っています。東京と十三浜など現地、双方での活動を通じて地域間の人的交流をはかり、地域の活性化にも寄与する取り組みにしたいと思っています。

## 2016年の十三浜地区／樹木の引き取り

高台への住宅、施設移転が進む十三浜地区。いつもお世話になっている相川地区の移転地は2箇所に分かれています。ひとつは造成中で、2017年度には引き渡しを迎えるそうです。



上：2016年・造成中の相川中地区  
奥に見える伐採中の林の手前につくられた平らなところが造成地

相川中地区の航空写真 2016年10月撮影

（石巻市・復興交流センターに掲示されている事業経過報告資料を撮影させて頂いたもの）

もうひとつ、こちらの相川北地区は住宅が建築中。昨年の報告に造成中の写真を載せた相川の北地区です。もう住み始めたお宅もあります。

（右写真：引き渡し済み建築中の相川北地区）



← 左写真は同じく昨年の報告に造成中の写真を掲載した大室地区の移転地です。昨年製作にはこちらで伐採した木々の材も一部、使用させて頂きました。概ね造成が終わり、もうすぐ引き渡しになります。

2016年には、このような移転地の一つ、相川地区のお隣にある小泊地区から、移転地周辺で伐採したスギを河北の製材所に製材して頂き、分けて頂けることになりました。どこに生えていたか知っている木々を分けて頂けるのは本当に嬉しいことです。無駄なくすべて、そして、形を変えながらも使っていきたい気持ちが自然に強くなります。手配をお手伝い下さる北上総合支所、連絡や調整をお手伝いして下さる自治会のみなさん、伐採を担当する宮城十條さん、そして製材して下さる福田材木店さん、みなさんに感謝申し上げます。8月には、日本工学院の先生と学生さんと一緒に、製材所に見学に伺いました（右写真）。素材の成り立ちに思いをはせる、いい機会になってくれたことと思います。



## 「はじめての建築」2015

2015 年も日本工学院八王子専門学校では、「はじめての建築」課程において子育て支援センターや農園、仮設団地の近くなどで使って頂く遊具やベンチ、東屋を 8 つ、道具などをしまうことのできる倉庫や小屋を 3 つ、設計・製作して下さいました。

こちらは、各班で選んだデザインを元につくったプレゼンシートの一部です。このようにコンセプト → 設計図 → 材料の選択や用意 → 製作 → さらに一度解体する、という一連の体験をしてもらう実習です。



### 光、影、風 ~3 2 本の柱から生み出される空間~

**Concept**  
一室のごだわりは、風、人が自由に通り抜ける様な計画にしましたことです。等間隔に柱を建てたことで風が通り抜けるようにし、小屋の中に移動のできる机と椅子をおき、人も通り抜けるにしました。光の当たる角度によって影のきかたが変わっていき、柱と柱の間から見える景色もありますが、空を配したことからとざれとざれの景色から鮮やかな景色へと移り変わります。

**Diagram**

外からの風が中に抜ける椅子状の通り

Elevation Section Plan

**Impressions**  
この小屋を造ると決まった当初、楽しみな反面不安もありました。しかし、自分がしっかりやっていたらみんなもついてきてくれると思いきや、誰かが何をやらなかったらみんなもついてきてくれました。みんなが作業しやすい様に編成したり本当に悩みました。そんな時こそ互いに協力し合い乗り越えてきました。このような行事やイベントをしっかりとやって団結力を深めていきこれからの学校生活をみんなで大切にしていきたいと思えました。

班長 永塚星 奥の 林 敬史  
広報 井上達哉 砂川 悠輝  
会計 伊藤洋海 深界 絵里奈  
CAD 青川 光秀 杉山 悠希  
施工 岡野 潤一郎  
吉田 隼二 小糸 未輝  
加藤 大城 杉野 大志  
渡辺 幸秀 渡辺 直樹 土方 友斗

10 月の学園祭で完成した作品を、これらのプレゼンシートと一緒に展示し発表して、来場した方々にも説明をしたそうです。そして学園祭の終了後に一度解体してから、2016 年春に現地へ運搬しました。最近では現地で組立をしやすいように部材の使い方などにも気を配って製作して下さいっているそうです。

## 現地への設置・2016年 ～十三浜

今年も何カ所かに分けて設置をしましたので、荷下ろしもそれぞれの場所に下ろすようにしました。また、今年から気仙沼の海べの森をつくろう会さんの果樹農園へいくつか置かせて頂けることになりましたので、気仙沼にも持って行かせて頂きました。最近では道路工事や造成工事などにより、立ち入りができなくなった場所もありますし、建築物を置くことの出来ない場



所も多くなりましたので、その都度、関係者のみなさんと相談しながら配置を決める必要があります。

2016年の春、作業の季節がやってきました！

八王子から、2015年の作品を運んできたトラックが到着しました。みんなで設置場所に合わせ、数カ所に分けて荷下ろしをします。

新しく2016年3月にオープンしたばかりの復興まちづくり情報交流館（北上館）に、屋根付きベンチを置かせて頂くことに。休館日でも外に座って休んで頂くことができたらとのお話しを頂き、置くことになりました。交流館は「街の将来像」「復興事業の進行状況」「地域の取組に関する情報」等を展示して見てもらうためにできた施設で、震災前後の写真展示もあります。工事の車両が多く通り、なかなか外でゆっくりとはいかないという話もあるのですが、少しでもみなさんが有効に活用出来るとよいなと願います。今回は、この小屋のデザイン考案者である学生さんが現地への設置のため来てくれました。

自分の考えた作品がこのような形で現地で活用してもらえることに感激、一生懸命作業をしてくれました。本当に、多くの方に使って頂けたらと思います。



橋浦の子育て支援センターに、今年も作品を設置させて頂きました。座ることのできる、遊具兼ベンチのようなデザインです。ちょうど八重桜が咲き、きれいな園庭で作業させて頂きました。座るとちょうど園庭を見渡すことができるので、保護者の方にも使って頂けそうです。



相川の子育て支援センターでは、園庭で遊んだりするときの遊具を置いておく棚が少し古くなっているので、新しくできないかというお話を頂きました。学生さんが場所を計測して、以前倉庫として作成した作品を改良して棚を現地で製作しました。一回でできずに何度か行くことになってしまったので、すぐには設置できず、最初に思っていた場所とは違う場所への設置になりましたが、支援センターの園長先生と相談して、砂場のすぐ脇に置かせて頂くことになりました。道具などをしまっておくなど、活用して頂いております。



### 現地への設置・2016年 ～気仙沼

今年のはじめて、気仙沼地区でも作品を使って頂けることになりました。現地協力団体である「海べの森をつくろう会」さん活動地の果樹農園に置かせて頂きます。事前に2015年の建築を見て頂き、持ってくる製作品を選びました。今回の活動には製作に携わった学生さん、教員のみなさん、そして、4年前のこの活動開始から来て下さっている元学生さん＝OBになった方も、参加してくれました。この活動がきっかけとなって、こうやってみんなで現地に何度も足を運んで一緒に活動が続けられて、本当に嬉しいです。一度つくってから解体していますので、組み合わせがわからなくなることもしばしば。これも実習のうち？さらにそのまま使うばかりではなく、設置時点で素材を組み直したりしています。先生の出題に悩みながら、学生さんの設置作業が続きます。山の自然学クラブメンバーは口は出しすぎないように、手は動かし、はたまた、たまには少しだけアイデアを出してみたり...



海べの森をつくろう会のメンバーのみなさんも手伝って下さって、無事に設置終了。この土地は“農地”だそうですので、恒久的な建築物は置けませんが、このくらいの小さなものであれば動かすこともできますし、それでよいということであれば、こちらとしてもありがたいです。

海べの森をつくろう会さんの活動に参加するみなさんや、お子さん達が少しでも楽しんでくれたらよいな、と思います。夏は陽射しよけにもなりそうです。



作業のあとにはみなさんが用意して下さった地元の味覚をたっぷり頂きました！実はこのピザ釜→に使っている耐火レンガは、この年2月に前に私たちがお手伝いして持ってきたものです。今回、すっかり自分たちが楽しませて頂きました。この日メンバーのみなさんはずいぶん手間も時間もかけて準備して下さったことと思います。

いつもありがとうございます。お世話になりました。



### 建築の調整・メンテナンス・追加などの現地作業

この活動の現地活動で大切な仕事は以前持ってきたものを使って頂きやすいよう、また、使い続けて頂けるよう繰り返し手を入れていくことです。現地での設置・製作も5年目。以前持ってきたものを改修したり、増築したり、解体したり、また組み合わせて別のパーツに使ったりと作業を重ねています。使って下さるみなさんが補強したり別の活用方法を見つけて利用して下さったりもします。このように繰り返し使い続けることができるのは木材の大きな利点でもあります。



### おおたオープンファクトリーへの企画製作／2016年からの新しい活動

2016年から日本工学院専門学校では新しい活動を始めました。八王子専門学校で中心となって活動して下さっていた渋田先生が蒲田校へ転勤されたこともあって、これまでの八王子に加え蒲田校の建築学科で「おおたオープンファクトリー」に関連した活動を新しく検討して下さいました。「おおたオープンファクトリー」とは、多摩川の下流に位置する、日本有数の“モノづくりのまち”大田区の町工場を1年に1度、一斉に公開する取り組みです。新田丸エリア（下丸子・新田丸エリア）の工場公開などを中心とした日と、工場アパート（テクノWING、OTAテクノCORE、テクノFRONT 森ヶ崎）や工業専用地域（京浜島・城南島エリア）の限定見学オープンやバスツアーが企画される日の2日間を中心に広範囲でイベントが行われます。このイベントは「産業観光まちづくり大賞」の金賞を2013年に受賞しており、先進的な取り組みとして人も注目も集めています。



学生さんが「おおたオープンファクトリー」に必要と考えられるものを作ることで運営スタッフや工場の人たちと共同の作業を経験してもらおうという取り組みです。オープンファクトリーの会場や公開される工場を使って頂けそうなものを提案して製作します。その製作に十三浜の木材を使って頂き、イベントの終了後、工場や学校でそのまま使うものは使って頂く一方、一部の作品は現地へ戻して頂く予定です。







学生さんが模型を製作して工場の方から要望を聞き取り、工場の製品を展示する棚や台、パネルの台、ベンチや道案内のサインなどをイベントに合わせて製作、また製作した家具を関係者に見てもらって要望を聞き、さらに改良するなどしたそうです。数日前に訪問させて頂くと、すてきなベンチやパネル台ができあがっていました！

オープンファクトリー当日は、多くの親子連れが工場体験に来ていたりとたいへんな賑わいでした。日本工学院のみなさんの製作も素敵に活用されていました。こんなところにも使って頂けて、活動の広がりを実感しました。本当に嬉しい限りです。



### これからの十三浜プロジェクトに向けて

現地の状況は、時々刻々変化して参ります。今回、大田区での製作を始めましたが、現地では工事が多くて大きな建築では設置できないかもしれないという事情もあり、時節に合わせた活動として検討したものでもあります。今後も現地のみなさんと協力しながら、相談させて頂きながら、対象等を検討しながら、続けていきたいと考えています。

このプロジェクトでは、毎年その時期に伐採される予定の樹木を教えて頂き、その木を可能な形で利用させて頂くことが基本です。今のところ、事業のために伐採する木を有効活用させて頂くことをしていますが、現地の状況等に応じてこれからも地域資源の活用をはかりながら活動を持続的に行いたいと考えています。

## 十三浜 浜の歳時記・2016年

今年もたくさんの浜の恵みとふれあい、感じ、楽しみ、感謝をする一年でした。浜のみなさん、浜を訪れるみなさんとの日々が私たちの活動の糧となっています。これからも、現地の季節の営み、自然環境、そしてみなさんの生活とともに活動を続けていきたいと思えます。



### 【春・ワカメの収穫】

浜のオヤジさん達が一番格好いいのは、やっぱり浜の仕事をしていらっしゃる時です。十三浜で一番の自慢は、やっぱりワカメ。十三浜若芽は関東でもよく見かけるブランド品です。まずは、水揚げをしたらすぐに浜で茹であげ、冷水にさらします。その後塩で水分を抜き、塩蔵にします。



塩蔵に処理をしたあとに、商品の分類に仕訳をします。葉の部分、茎付きわかめ、茎わかめ、メカブなど、取引先とのやりとりに応じて手作業で仕訳をします。



### 【天然資源を守りながら頂く開口】

アワビやウニはそこにあるものを船から採るのが十三浜の漁法であり、きまりです。舟に箱めがねを乗せ、長い竿に付けたかぎ針で漁をします。開口の日はその年に応じて漁協で決めて、みなさんその日は夜明けを待って出漁します。仲買の方はその水揚げを待ってそのまま河岸へ。都心の料亭や寿司屋さんに十三浜の天然アワビが多く出荷されています。



### 【夏・十三浜夏祭り】



2016年8月。十三浜で5回目の夏祭りです。前日に準備をしておいた会場で、お昼頃からお祭りが行われました。定番となっている、子ども達の“十三浜甚句”からお祭りが開まります。先生達に引率され、相川子育て支援センターのみなさんが練習を重ねた甚句を披露します。相川小学校のみなさんは太鼓を披露。地元のみなさんも大喜びです。

カッコいい太鼓の音が響きました！そして今年も手製の流しうーめんをやりました！今年は海に向かうようにしました。十三浜ワカメを使った「わかめ温麺」、みんなでにぎやかにすくい取って頂きました。いつもながらきちみ製麺さんにはたいへんなお世話になりました。

・ ・ ・これから、次の春も、夏も、そしてまたその次の年も、楽しみにしていきたいと思えます。